

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成18年4月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成18年3月分(平成18年2月27日~4月2日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	580	1.01	9.45	↓	12	ヘルパンギーナ	15	0.04	0.08	↑
2	RSウイルス感染症	83	0.23		↘	13	麻疹	0	0.00	0.10	
3	咽頭結膜熱	138	0.38	0.20	↑	14	流行性耳下腺炎	546	1.52	1.01	⇨
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	706	1.96	1.02	⇨	15	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.03	
5	感染性胃腸炎	4,569	12.69	11.22	⇨	16	流行性角結膜炎	133	1.40	1.22	⇨
6	水痘	857	2.38	1.67	⇨	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	12	0.03	0.13	⇨	18	無菌性髄膜炎	7	0.07	0.04	
8	伝染性紅斑	77	0.21	0.24	⇨	19	マイコプラズマ肺炎	16	0.15	0.16	↑
9	突発性発疹	219	0.61	0.62	⇨	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	9	0.03	0.02		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風疹	3	0.01	0.02		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	⇨	⇨
↓	↘	⇩	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾患No.	1	1~14	15,16	22~25	17~21,26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

定点把握（月報）五類感染症

平成18年3月分（3月1日～3月31日）

疾患 No	疾患名	月間 発生 数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間 発生 数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感染症	51	2.22	2.28	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	124	5.90	6.07	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	14	0.61	0.43	↑	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	38	1.81	2.32	↔
24	尖圭コンジローマ	10	0.43	0.61	↔	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.24	0.41	
25	淋菌感染症	13	0.57	0.61	↔	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症

発生なし

二類感染症

発生なし

三類感染症

1件【腸管出血性大腸菌感染症（O157）1件（広島市保健所管内）】

四類感染症

2件【つつが虫病1件（広島市保健所管内），A型肝炎1件（広島市保健所管内）】

全数把握五類感染症

13件【アメーバ赤痢4件〔広島市保健所管内2件，呉市保健所管内2件〕

急性脳炎2件（広島市保健所管内）

後天性免疫不全症候群2件（広島市保健所管内1件，福山市保健所管内1件）

梅毒1件（広島市保健所管内），ジアルジア症1件（広島市保健所管内）

クロイツフェルト・ヤコブ病3件（広島市保健所管内3件）】

3 一般情報

【海外で注意すべき感染症について】

4月29日からの大型連休中には、海外に渡航される方も多く、健康で快適に旅行し、帰国するためには、感染症に対する注意が必要です。

主な感染源	主な感染症	主な発生地域	主症状	予防策	
				予防接種	その他
食べ物、水	A型肝炎	発展途上地域	発熱、倦怠感、黄疸		十分火の通った食べ物を摂る。生水は飲まない。
	赤痢	発展途上地域	発熱、下痢、激しい腹痛		十分火の通った食べ物を摂る。生水は飲まない。
	コレラ	発展途上地域	大量の水様便、嘔吐、脱水症状		十分火の通った食べ物を摂る。生水は飲まない。
	腸チフス	発展途上地域	持続する高熱、倦怠感、比較的除脈		十分火の通った食べ物を摂る。生水は飲まない。
蚊の吸血	マラリア	熱帯亜熱帯地域	周期的高熱、悪寒、発汗		夜間の外出を控える。虫除けローションの利用 長袖・長ズボンの着用。
	デング熱	熱帯亜熱帯地域	高熱、目の奥の痛み、筋肉・関節痛		虫除けローションの利用 室内での香取線香の使用など。
	ウエストナイル熱	北アメリカ	発熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感		虫除けローションの利用 長袖・長ズボンの着用
動物	狂犬病	世界各地	発熱、頭痛、嘔吐、倦怠感		犬や野生動物との接触を避ける。
	鳥インフルエンザ	南北アメリカを除く世界各地	発熱、頭痛、筋肉痛、その他風邪用症状		鳥類との接触を避ける。 手洗い、うがいの励行
その他	寄生虫症	世界各地			衛生的な食堂での食事 手洗いの励行

【これからの感染症について】

咽頭結膜熱、ヘルパンギーナは3月の月報で患者の発生が急増していますが、これから夏期にかけて好発時期を迎える感染症です。

咽頭結膜炎（プール熱）

病原体はアデノウイルスで、感染してから5～7日で発症します。

感染経路は飛沫感染で、経口あるいは経結膜感染もあります。

症状は発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠、咽頭痛、結膜充血、眼痛等です。

予防法は、感染者との接触を避ける、うがい、手洗いの励行で、プールに入る前や出るときはシャワーを十分に洗い、タオルの共用はやめましょう。

ヘルパンギーナ

病原体はコクサッキーウイルスで、感染してから2～4日で発病します。症状は発熱、咽頭痛、頭痛、筋肉痛等です。感染は急性期にのどからウイルスが排泄されるため、咳をしたときの飛沫感染によることが多いが、便からもウイルスが排出されます。

予防法は、乳幼児のオムツの交換の際には、手洗いの励行を行なうことと、洗濯物を日光で乾かすことなどです。